

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1472602786
法人名	有限会社 良観
事業所名	グループホーム ぽっかぽか
訪問調査日	2019年1月18日
評価確定日	2019年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 30 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472602786	事業の開始年月日	平成17年4月1日	
		指定年月日	平成17年4月1日	
法人名	有限会社 良観			
事業所名	グループホーム ぽっかぽか			
所在地	(252-0246) 神奈川県相模原市中央区水郷田名2-20-14			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成31年1月5日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に合ったケアと自由に楽しい空間づくり

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成31年1月18日	評価機関 評価決定日	平成31年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>●この事業所は有限会社良観の経営です。ここ「グループホームぽっかぽか」はJR横浜線「相模原駅」南口5番乗り場から「水郷田名」行きのバスに乗り、約17分程の終点「水郷田名」バス停で下車して、徒歩7分程の住宅街にのちに位置し、近くには春になると花見見物で賑わう相模川が流れています。外観は周りの景観に馴染んだレンガ風の建物で、木造2階建ての造りになっており、前庭に花や野菜等を栽培する畑がある、大きな日本家屋が「グループホームぽっかぽか」です。</p> <p>●事業所の理念に「お客様の立場に立ち何を望んでいるかを心から考え一つ一つ確実に社会に貢献していく」掲げ、ケアの方針に「入居者に家庭的な環境の下、能力に応じた自立した生活が出来る様に機能訓練で支援を行う」としています。管理者は「利用者には時間がある。急がなくても、失敗してもいい、出来る事は自分でやろう」をモットーとし、利用者の生活全般を通じて一人ひとりの現在残っている力を最大限に活かし『チャレンジして見てみよう、目的を果たすに「力足らずば」、その人に寄り添い支援として力を貸します』とした、代表の開設時からの変わらない熱い思いの下、自立支援に注力して取り組んでいます。</p> <p>●事業所のケア方針でもある「入居者が家庭的な環境の中で自身の生きる力を最大限活かせる様に介護者が生活を援助を行う」に沿って、利用者の出来る事、得意とする事を最大限に発揮してもらえるよう、食事の時には、包丁を使った小口切り、刻みの他、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い等、全員に何らかの役割を持って頂くことで、残存能力の維持につなげています。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ぽっかぽか
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3, 利用者の1/3くらいの
	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまにある
	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3, 家族の1/3くらいと
	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまに
	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3, あまり増えていない
	4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時の研修 及び 毎月の会議等で共有している	「お客様の立場に立ち、何を望んでいるかを心から考え、一つずつ確実に社会に貢献していく」とした理念を玄関に掲示しています。事業所では「入居者が家庭的な環境の中で自身の生きる力を最大限活かせる様に介護者が生活を援助を行う」とした理念・方針に沿って全職員で、この理念・方針を共有しながら、利用者の自立に向けた生き甲斐と楽しみを感じながら暮らせる様に支援しています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の交流会に参加している	自治会に加入し、回覧板を通して地域の情報を頂いています。天気や気候の良い日には毎日散歩に出かけ、出会った地域の方と挨拶を交わしたり、時には野菜を頂く等の交流もあります。また、水郷田名団地と水郷田名の2自治会で行われるお祭り等の他、お喋りサロンにも入居者と一緒に毎月参加しています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員を通して伝えている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の会議で行っている	民生委員、相模原市役所職員、管理者、社長の参加で2ヶ月に1回開催しています。事業所の現状・活動報告を行い、参加者から支援の方法等についての質問、意見、助言、提案も頂き、検討したうえでサービスの向上につなげています。運営推進会議の内容は議事録で全職員に周知しています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて行っている	現在は、6名の生活保護受給者が入居している関係で、生活支援課・高齢者相談課職員とも必要に応じて連絡して、相談にのって頂いています。また、研修等の案内を頂いた際には、職員の参加を促しています。さらに、県央地区の同業者の会合に管理者が出席しており、情報交換も行っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全く身体拘束は行っていない	運営規定並びに契約書に「拘束や行動の制限は行わない、緊急時の処置時には家族に連絡をして了承を得て、マニュアルに沿った対応を行う」と記載し、身体拘束に関するミーティングも行き、拘束の無いケアに努めています。身体拘束・虐待禁止のマニュアルを整備している他、事例に基づいた職員研修も行い、声かけを始め、入居者ひとり一人に合ったケアを実践しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で研修会を開いている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議で研修会を開いている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に行っているほか、都度要望があれば対応している	契約時に重要事項9運営規定10条に記された苦情相談窓口と、その対応について説明を行っています。家族には社長の携帯電話番号を知らせており、何かあれば直接社長に言えるようにしています。面会時や運営推進会議時にも意見や要望等を聴く機会を設け、記録に残し、共有したうえで検討して改善につなげています。また、毎年1回利用者満足度調査も実施しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で行っている	事業所では職員の日々の業務を通じての気づきや意見や提案を月1回のフロア会議で「会社への要望」として自由に意見が言えるようにしています。また、管理者と職員間は日頃から気軽に話せる関係も構築されており、常に意見や提案を聴いています。意見や提案は検討の上、運営に反映し、職員が更なる向上心を持って働けるよう努めています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と法人代表者で話し合っている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議での研修や作業中のアドバイス等を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	2か月に1回行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の交流の中で対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や必要に応じて確認している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時や必要に応じて確認している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の交流の中で対応している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の交流の中で対応している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば都度対応している	これまで利用者が築き上げてきた馴染みの人との関係が途切れることのないよう、来訪時には湯茶接待等を行いゆっくりと過ごして頂けるよう配慮しています。利用者の楽しかった思い出の「今の思い出を知って」心に残る食べ物を食べに行ったり、思い出の場所に出かける等、個別対応で支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の交流の中で対応している			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があれば都度対応している			
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の交流の中で対応している	入居時のアセスメントで過去の生活歴や事業所での暮らし方の希望等について、本人と家族から話を聴きながら思いや意向の把握に努めています。思いを伝える事が出来る人、出来ない人がいますが入居時のアセスメントで得られた情報を基に日々の関りの中で、表情や仕草から、本人本位に検討して極力叶えられるよう支援しています。今現在の本人の思いを第一として、お墓参りや、住んでいた家に立ち寄ることもあります。		今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日の交流の中で対応している			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の交流の中で対応している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて行っている	入居時は暫定の介護計画を立て、経過を観察しています。長期目標は6ヶ月、短期は3ヶ月での見直しを基本としていますが、変化が生じた場合は都度見直しを行っています。毎月の会議で日々の観察に基づいた意見を出し合い、計画作成者を中心に看護師の意見や家族の要望等も加味しながら、その方の残存能力に見合った介護計画を作成しています。介護計画は、本人と家族に確認を頂いた後に、介護プランとして実施しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティングを通して共有し活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の交流の中で対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日の交流の中で対応している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて行っている	事業所の提携医である「うめざわクリニック」には、職員がお連れしての受診となっています。症状や科目に応じて国立相模原クリニックの他、専門医療機関への受診する等、適切な医療が受けられるよう支援しています。口腔ケア・治療は「長崎歯科」の訪問を受けています。従来のかかりつけ医での受診を希望される方は、家族対応を原則とし、受診にあたり必要な情報を提供し、診療結果は情報を共有しています。週1回の契約看護師の支援で利用者の医療的管理と適切な医療支援が行われています。また、必要に応じて通院介助も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて行っている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じて行っている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて行っている	入居時に、重度化した場合の指針、事業所の出来ること、出来ない事含め家族・後見人に説明して同意書を交わしています。主治医が終末期と判断した時点で、希望を伺い、家族・ケアマネ・医師・看護師・事業所責任者との話し合いの場を設け、種々選択肢を示しながら最善の方法を見出し支援を行っています。事業所では終の棲家として終末介護を希望される方と同意書を交わし、看取り専門医の支援の下に穏やかな最期を迎えられるよう支援しています。		今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議の研修で行っている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1回の避難訓練で実践している	運営規定9条に非常災害に備えるため、消防計画を作成し避難対策を行う。①防災責任者には事業者責任者で火元責任者は事業計画作成責任者を充てる。その他、火災予防の自主点検・災害対応用設備は契約保守業者に依頼し・自衛消防隊を編成する・消防訓練を年6回行なう等と定め、これに基づき、年6回夜間を想定した火災・地震の避難訓練を実施しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の交流の中で対応している	利用者を人生の先輩として敬い、言葉遣いの乱れは不適切支援に繋がる事を職員間で共有しながら、利用者一人ひとりの人格を尊重して、誇りやプライバシーを損ねる事の無い対応を心がけています。排泄や入浴介助時には羞恥心にも配慮しています。呼称は「さん」付けを基本にしていますが、本人や家族の意向で慣れ親しんだ呼称で呼ぶこともあります。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の交流の中で対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の交流の中で対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の交流の中で対応している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の交流の中で対応している	食事作りでは、利用者のリクエスト等も採り入れて食材を調達し、調理準備では包丁を使った小口切り、刻みの他、盛り付け、配膳・下膳・洗い等、全員が何らかの役割を持つことで、残存能力の維持につなげています。時には外食も取り入れながら、食事が楽しみなものとなるよう支援しています。季節の行事に合わせた食事も取り入れ、誕生日にはケーキも用意して、皆でお祝いしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の交流の中で対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の交流の中で対応している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日の交流の中で対応している	水分摂取量と排泄チェック表を基に1人ひとりの排泄パターンを把握に努めています。代表の想いの下、時間がかかっても、失敗したとしても、トイレでの排泄を促すことで、オムツに頼らない生活の実現を目指して支援しています。夜間においても、日中と同様の支援で経済的、精神、衛生的にも負担がかかるオムツ使用を無くす支援に注力しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の交流の中で対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日の交流の中で対応している	曜日や時間に捉われず、その方の気分や体調に配慮しながら入浴支援を行っています。入浴時には、打ち身・あざ・湿疹などの発見に繋がる事を踏まえ、声かけ等を工夫しながら入浴を促しています。また、ゆず湯や、菖蒲湯等の季節のお風呂や、利用者によっては一緒に唄を歌いながら、楽しく入浴出来るよう工夫しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の交流の中で対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の交流の中で対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の交流の中で対応している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の交流の中で対応している	散歩を希望する方が多く、天気や気候の良い日には利用者の希望時間に合わせて、近くの相模川沿い散歩したり、買い物にお連れしています。また、月1回は外食の日を設けて近くのレストラン等に出かけたり、季節に合せた外出も企画して、弁当を持参して相模原公園等に出かけることもあります。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて行っている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の交流の中で対応している	室内は清掃が行き届き、職員によって適切な温度や湿度が管理されています。居間兼食堂は大きなガラス戸を採用し、採光も良くて明るい空間になっています。居間からは食事準備風景等も見られ、無機質にならないように、季節の花等も生けています。畳部屋には炬燵が用意され、長押しにつり革、廊下に手すり、トイレには場所を示す表示もあり、壁面には皆で作成した季節感のある装飾と、行事時の写真等も飾られています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	毎日の交流の中で対応している			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の交流の中で対応している	各居室には、防災カーテン、エアコン、クローゼットが完備されていますが、入居時には、使い慣れた家具や調度品を持ち込んで頂くことを勧めています。使い慣れた椅子、鏡、思い出の家族写真、ぬいぐるみ等を持ち込まれ、その方にとっての馴染み生活空間が作られています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日の交流の中で対応している			

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームぽっかぽか

作成日

平成31年1月18日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員の入社困難	施設の働きやすい環境づくり	職員や入居者の友人知人、昔務めていた職員等にホームのイベント（焼き芋会・芋煮会・餅つき等）時にはお知らせをしてホームに来ていただき、ホームの良さを味わって頂く事で募集に繋げる事を職員との話し合いを通して環境づくりを行う。	1年
2	2	職員の入社困難	採用方法の見直し	他所状況を把握して、時給や社員採用等の基準見直しをして魅力の構築を図る。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。